

令和四年度 准看護科入学試験問題 国語 問題用紙

一、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。但し、字数制限のある問題はすべて句読点・記号を含むものとする。

国語の長文問題は著作権の関係により公開できません

問 1 傍線アゝクのひらがなを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問 2 (A) (B) (C) (D) に入る最も適切な語句をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。ただし、同じものを二度使うことはできません。

ア しかし イ つまり ウ それに エ だから オ むしろ

問 3 傍線部①「ひとは一個の全体としてとらえられるほどまとまった存在ではない」ということの論拠として筆者が挙げている二点を次のようにまとめた場合、空欄に適する語句をそれぞれ指定の文字で本文中から抜き出し、その初めと終わりの五字を解答欄に書きなさい。

① ひとには 四十字 があるから。

② ひとの 十八字 から。

問 4 傍線部②「患者の『全人的理解』ということがより理由があることは分からないでもない」とあるが、その「理由」として筆者が述べている内容としてもっとも適切なものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 医療の現場において患者を医療技術の対象としかみなかったり、受動的な立場としてとらえたりということが起こりがちだということ。

イ 看護よりも医療技術が先行することによって、看護にたずさわるひとと患者とのあいだに感情がかよいにくくなってきているということ。

ウ 医療の現場においては医療従事者が主体、患者が客体という関係が必然的に生まれるため、弱い立場の患者を守る必要があるということ。

エ 医療の現場では患者を看護の一個の対象として見がちであることによって、病をも局所的な患部としてとらえてしまっているということ。

オ 病を患者の生活や人生全体との関わりにおいてみることでなくなってしまうことが、患者を「ケアされるひと」という受け身の存在の中に閉じ込めることにつながるということ。

問5 傍線部③「そして『他者の理解』ができれば、看護というものは頓挫してしまうほかないのだろうか、ほんとうに。」

とあるが、筆者はどのようなところに可能性を見出そうとしているか。その内容として適切でないものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手の想いをじぶんの理解の枠におさめようとしないうことで、ひとはじめて他者としての他者の存在に接することができるということ。

イ じぶんの主張がその場で受け入れられたということよりも、じぶんのことばを受け取ってくれたということのほうが理解においては重要な意味をもつということ。

ウ 感情の一致、意見の一致をみるということではなく、自他のあいだの差異を深く、そして微細に思い知られるというプロセスを経たあとでこそ、これまでとは違ったふうにしぶんを感じられるということ。

エ 相手のことを分かろうとしぶんが相手に関心をもちつつづけていることを自分のことばやふるまいのうちに確認してもらえたとき、相手は「分かってもらえた」と感じるということ。

オ 他者としての他者の存在を認めたくて、相手の傍らを立ち去らないという姿勢を大切にすることが、互いの全体的な理解の第一歩だということ。

問6 傍線部④「理解はつねに時間的な出来事でもあるのだ。」とはどういうことか。その内容としてもつとも適切なものを

ア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自他のあいだの差異を深く、そして微細に思い知らされるまでには多大な時間が必要だということ。

イ 他者を理解するためには、分からないままに身をさらしあう果てしのない時間が必要だということ。

ウ 他者の想いにふれ、「あのときは分からなかったけれど、いまだったら分かる」ということもあるので、他者を理解するためには時間が必要だということ。

エ 理解とは、他者とのあいだの一致よりも不一致、伝達よりも伝達不能を思い知るプロセスをとおして、自分自身が変わったと感ぜられるようになることを含んでいるということ。

オ 他者を理解するということは、合意とか合一といった到着点をめがけるものではなく、一致よりも不一致、伝達よりも伝達不能を長い時間をかけて思い知ることだということ。

二、次の各問いの傍線部の熟語にあてはまる読み方をあとのア～エから選び、記号で答えなさい。

① 主役がたった今楽屋に入った。

② 彼はぼくの一番の味方だ。

③ 朝起きたら久しぶりの青空だ。

④ 出発の合図をする。

⑤ 木々の新芽が美しい。

ア 訓＋訓読み イ 音＋音読み ウ 音＋訓読み（重箱読み） エ 訓＋音読み（湯桶読み）

三、次の熟語の構成として適切なものをあとのア～オから選び、記号で答えなさい。

① 未知 ② 探求 ③ 後退 ④ 進退 ⑤ 帰国

ア 意味が似た字を組み合わせたもの

イ 意味が反対の漢字を組み合わせたもの

ウ 上の字が下の字を修飾するもの

エ 下の字が上の字の動作の目的語となっているもの

オ 上の字が下の字の意味を打ち消すもの

四、次の熟語の対義語を、あとのア～シのうちの二字を組み合わせて作りなさい。その際、その熟語の構成どおりの順に記号で答えなさい。

① 具体 ② 危険 ③ 否定 ④ 縮小 ⑤ 供給

ア 酷 イ 全 ウ 肯 エ 大 オ 象 カ 安

キ 抽 ク 定 ケ 要 コ 支 サ 需 シ 拡

五、次の各問いの四字熟語には誤った漢字が一字ずつ含まれている。その誤字を訂正したものととして正しいものを、あとのア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 日新月异 ② 言語同断 ③ 万場一致 ④ 短刀直入 ⑤ 一触速発

ア 単 イ 道 ウ 真 エ 進 オ 常 カ 即 キ 当 ク 満 ケ 触 コ 後

六、次の各問いの□に体の部分を表す漢字一字を入れて慣用句を完成させなさい。

① □が売れる。（有名になる。）

② □が利く。（鑑識眼がある。）

③ □にのぼる。（うわさされる。）

④ □にはさむ。（チラッと聞く。）

⑤ □を切る。（関係を清算する。）